

+1 (プラスワン)

「エイプリル・クール」

牧師 横山順一

「予算を通すことが最大の景気対策」とか首相がのたまって、二〇一六年度予算案がさしたる議論もなく可決されそうだ。

巨額の復興予算を筆頭に、限りなく課題は多いが、防衛費は初の五兆円超えである。現政権四年連続で増えた。

このレベルになると、金銭感覚がマヒして、昨年より七四〇億円増と聞いてもピンと来ない。

一方で、隣国・中国も毎増額で今年の軍事費は日本の約三倍という。日本は世界で九位、中国は二位。そして中国当局は、一人あたりで換算すれば日本の五分の一だと喧伝する。

時々、ちやうど食事どきにユニセフのCMが入って、飢餓の子どもの光景が画面に映される。思わず、はしを持つ手が止まる。

その日本ユニセフが昨年募金で集めたお金は一六〇億円である。それだって凄い金額だと思っけど、懸命の善意でそれに留まるのだ。

わが日本キリスト教団は、東日本大震災のおり、五億円の募金計画を立てた。海外からの助いで五年経って何とか目標に達した。

同信伝道会の神学教育後援会の予算規模は年五く六百万である。これを必死で集めている。昨年、将来牧師を目指す大学院の学生たち五人に、一人十萬円の奨学金を渡すことができた。何とかしてその規模を拡大したいと切望する。

関西労働者伝道委員会も全額募金で予算を立てる。夢は四〇〇万円だが、現実には二百数十万内外で行き来している。

オスプレイはおよそ一機百億円だそうだ。アメリカ軍に做って、自衛隊もこれを十何機だか購入する計画だが、ため息が出る。庶民には気の遠くなるような金額がポンと抛出されるのに、喪失感を持ってないマンガである。

保育園に子どもを入れられなかった母親が「日本死ぬ」と書いたブログが猛然と広まった。この思いを理解し得ない議員たちから心無いヤジが飛んだ国会。

世界でも、日本でも本来用いたい、使いたいお金の行き場がたく

さんある。

二〇一四年の世界軍事費合計は二一三兆円だった。出どころすべて税金なのは言うまでもない。

二十一世紀になっても、いまだ「力」の論理が世界を覆っている。自国の武力は「防衛」で、他国のそれは「脅威」との呼応が止まらない。

紛争が続く地域のどこをとっても、軍事力でそれが解決できるとは到底思われない。それは既に過去の歴史がまざまざと証明していることなのに。ぐずぐずしている間に、悲しい犠牲が加えられてゆくだけだ。

ある日、神さまが各国のリーダーたちを一同に集めて言われる。

「お前たち、いっせいで武器を捨てよ。そうすれば世界が祝福に包まれる。」

そんな日が来ないものか！そうしたら二百兆円のお金が、きつと「平和」のために使えるのだ。そんなクールな、素晴らしい現実が、いつか本当になって欲しい。